



①光明寺
(尾鷲市古江町)

②息子の
伊八郎さんが
携行した札状

③庄司剛士さんと
空助さんの供養塔

④和兵衛さんが
妻子に遺した
願末口述書の控え

熊野古道伊勢路を行く

～古江の善根宿が結ぶ190年越しの絆～

熊野古道伊勢路は、江戸時代に多くの巡礼者が聖地熊野を目指した「祈りの道」として知られますが、当時、紀伊国への玄関口であった荷坂峠から木本(熊野市)にかけては、里も少なく、幾多の峠道が連続する至難の道でした。もとより、熊野の地に救いを求めて巡礼の旅に出た者は、十分な旅の資金を持っておらず、時には野宿も強いられただけでしょう。そのような中、伊勢路沿線には「善根宿」といわれる個人の宿が存在し、宿泊だけでなく食事も無償で提供しました。「善根」とは、良い行いをすれば自分にもよい報いがあるという仏教の教えで、困っている旅人を迎え入れることは教えの実践でもあったのでしょうか。

ところで、今から約190年前頃まで、紀州牟婁郡木本組古江浦(現 尾鷲市古江町)に「和兵衛」という「善根宿」がありました。この善根宿に纏わる記録が、宿主 庄司和兵衛さんのご子孫である庄司剛士さんの自宅から平成9年に発見されています。(写真①参照)

れ、妻子を初七日まで泊めたのちに諫早へ送りかえしたが、その際、妻子に手渡した願末口述書の控えが残されています。

更に、その8年後、息子の伊八郎さんがお礼と墓参りを兼ねて、再度古江浦を訪れた際に携行した札状も、平成14年に同じく発見されています。(写真②参照) また、1918(大正7)年に、空助さんの88回忌の供養が古江の光明寺で執り行われたことがわかる古文書もあり、庄司家の墓地の一角に建てられた石塔が、空助さんの供養塔であることが明らかになりました。(写真③④参照) 当記録の発見以来、空助さんの子孫捜しが諫早市の有志発行の研究誌などで呼びかけられ、平成30年にもこの出来事を知った市内の男性が、調査に踏み切りましたが、依然として発見に至りません。また、現在も空助さんの供養塔は剛士さんにより大切に守り続けられています。

伊勢路を通った巡礼や旅人の記録は、関東方面からのものが多い中、はるばる九州から、しかも百姓が残したものは珍しく、当時の善根宿の姿を知る上でとても重要な史料となっています。そして、何よりも、見ず知らずの巡礼を温かく迎えた和兵衛さんの「おもてなしの心」が結んだ絆を、忘れることなく後の世代へと語り継いでいきたいものです。

時は、江戸時代後期の文政13年8月7日、肥前の国 高来群船越村(現 長崎県諫早市)から空助夫婦と息子の伊八郎の一家が、善光寺参りの後、伊勢神宮へ参拝し、西国三十三所巡りへの旅の途中、古江浦に着いたもの日が暮れてしまい、この善根宿のお世話になりました。ところが、宿泊中に父親の空助さんが急病になり、介抱の甲斐なく5日後に亡くなりました。空助さんの亡骸は和兵衛さんの配慮により手厚い供養が施さ



熊野古道からのてがみ

熊野古道から
のてがみ
53 通目

地元の御浜町に戻って12年が経ちました。熊野古道が世界遺産登録されてしばらく経った頃でした。自分が高校生の頃には学校の近くにこのような素晴らしい道があることを知りませんでした。その埋もれた道を掘り起こして下さった先輩方、そしてそれを維持し保全活動を行って下さっている方々には畏敬の念と感謝でいっぱい입니다。

風景、冬は伝統の祭り等々。カメラを持って出かけると、そこに報道カメラマンや地元のカメラマンが居て、本当に親切に色々教えて下さいました。東紀州は無料の遊び場がいっぱいです。山も海も川もあり、滝もある。歴史の道もあり神社もあります。この地域は何もないと言う人もいますが、実は「何もある」のです。探せば楽しいことが山のようにある。宝の山なのです!

熊野は若い頃には理解できなかった魅力に溢れていました。歴史が好きで社会科の教員を目指していた頃もあり、20代から神社仏閣をよく行っていました。熊野の魅力を知らず、ますます熊野の魅力の虜になりました。そして語り部の活動に参加して今に至ります。熊野古道を歩き終わった時「来て良かった」「楽しかった」「良い所だね」と言われることが何より励みになります。熊野古道世界遺産登録5・10・15周年記念ウォークに関わらせて頂くことが出来て幸せだなと思います。



と、ここで、古道歩きとはほぼ同時期に、デジタル一眼レフカメラも始めました。この地域は写真の題材となる美しい自然や文化が沢山あります。春には桜、水を張った丸山千枚田、夏は花火大会、秋には黄金色に染まる棚田の

次は熊野市の坂口けい子さん

山崎るみさん (御浜町)
熊野古道語り部友の会会員
尾鷲セラピストの会会員
御浜町文化財調査委員

花尻薫からの季節のたより No.53

木枯らしが吹き始める頃、温かい黒潮のひだまりでは、黄金色の花を盛り上げるように、亜熱帯のタイキギク別名「雪見菊」が見られます。

タイキギクは、フィリピンやアジア大陸の広大な亜熱帯地方の植物ですが、ヒマラヤ・中国・台湾・ベトナムを経由して、琉球諸島、及び四国・九州・本州へ北上した植物です。

本州では、暖かい紀伊半島南部と四国の高知県の一部に自生する貴重なキク科の仲間です。雪の降る頃に開花するので、ユキミギクとも呼ばれています。環境省が平成12年に発表した「改定、日本の絶滅のおそれ



タイキギク
キク科

ある野生生物」植物の部では、近い将来に絶滅の危険性が極めて高い種類にあげています。

東紀州の熊野古道沿いは転々と繁殖し、九木崎や三木崎・楯ヶ崎などは、主な自生地です。もともとは和歌山県南部に自生していますが、熊野川を渡って三重県側にはみあたらないと言われていましたが、私が熊野市新鹿町から遊木町へ向かう暖帯林で、大群落を発見しました。

11月の花の少ない時期から年末にかけて、東紀州のタイキギクは日本の北限の貴重な花であります。皆様の仲間でも今後、タイキギクを発見されましたら大切に保護してください。

センター敷地内「夢古道おわせ」

お母ちゃんのランチバイキング
 営業時間 11:00~14:00
 料金 中学生以上.....1,400円
 小学生以上.....700円
 4歳~小学生.....300円
 4歳未満.....無料
 60歳以上.....1,200円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
 深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

お風呂あがりは、カフェでゆったり
 毎月26日は風呂の日
 お子様は通常300円が100円で入浴できます

営業時間 9:00~16:30
 カフェラストオーダー16:00

「夢古道おわせ」に関するお問い合わせは TEL 0597-22-1124

熊野古道センター

お車でお越しの方は...
 尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分) ※尾鷲南ICからは約8分

電車でお越しの方は...
 JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車

熊野古道センターからのてがみ

●2019年 冬号●

- 発行日:2019年12月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:東
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumano-kodocenter.com
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

ホームページ
<http://www.kumano-kodocenter.com/>
 60000191210MH

熊野古道センター休館日のお知らせ
 3月11日(水)・3月12日(木)は、メンテナンスのため研究収蔵庫は休館いたします。

その他
Guide&Tips

こうしんどう
荒神堂改修



世界遺産・熊野古道のルートにある八鬼山の山頂付近に建つ荒神堂の改修工事が終了し、写真の通りピカピカになりました。
荒神堂は少なくとも400年以上前から信仰されています。お堂に祀られている石造りの「三寶荒神像」は1576(天正4)年作との記録があり、1978(昭和53)年に県有形民俗文化財に指定されています。その荒神堂が朽ち果てていたことから、「八鬼山荒神堂改修プロジェクト」が市民や市出身者らから寄付金約2100万円を集め、工事を進めました。八鬼山に行くことがあれば、ぜひお立ち寄りください。

旬の企画展

世界遺産登録15周年記念企画展
空間アート展「古道の旅人」

付属イベント
熊野古道の風景を現代アートで

熊野市の木本高校美術部OBで結成されたアートグループ「ecru(エクリュ)」による作品展です。子供から大人まで、観て、体感して、楽しんでいただける空間アートの世界をお楽しみください。
期間 12/28(土)・2/9(日)
時間 午前9時～午後5時 休館日 12月31日(火) 1月1日(水)
場所 企画展示室 入場料 無料

みんなでつくる
熊野古道アート

巡礼衣装を着た旅人姿をその場で撮影します。古道をイメージして描かれたキャンパスに、切り抜いた写真を貼っていくことで、最後には一つの作品として完成します。
期間 会期中の毎週土日(全14回)
時間 午前10時～午後3時
参加料 200円(材料費含む)
定員 100名(先着順)
場所 企画展示室
●撮影は職員がおこないます。
●作品は、令和2年2月9日(日)まで展示します。

参加者全員に
インスタントカメラで撮影した写真(85×54mm)をプレゼント!

バルーンでつくる熊野古道アート

バルーンを使って、熊野古道の石畳をイメージした空間アートをエクリュが制作。作品ができ上がっていく様子を体感しよう!
開催日 令和2年 1/3(金)
時間 午前10時～午後3時 場所 展示棟ロビー
観覧料 無料 制作 エクリュ
●作品は当日の午後5時まで展示します。

同時開催
風船の森をつくろう!

エクリュが制作する石畳の周りに飾る木をバルーンで制作します。当日お手伝いしていた方をお集まりします。
時間 ①午前11時～12時 ②午後2時～3時
参加料 無料
定員 各20名(要申込・先着順)
場所 展示棟ロビー

同時開催
オリジナル風船をつくろう!

好きな絵を描いて、世界に一つだけのオリジナル風船をつくりたい。風船はお持ち帰りいただけます。
時間 午前10時～午後4時
参加料 200円(材料費含む)
定員 100名(当日先着順)
場所 展示棟ロビー

特別展示室企画展
透明水彩画教室作品展

講師に熊野市出身の画家、新谷武文氏を迎え、4回に亘り開催した「透明水彩画スケッチワークショップ」の成果発表として、参加者が描いた作品を展示します。
期間 令和2年 1/25(土)・3/22(日)
時間 午前10時～午後5時
入場料 無料
場所 特別展示室
休館日 令和2年3月11日(水)・3月12日(木)

和歌山県
世界遺産センター
からのお知らせ



年の瀬も迫って参りました。今年も熊野参詣道へ国内外から多くの方がお見えになり、当センターもご利用いただきました。またこの秋、参詣道保全活動(道普請)に下記のように多くの皆様にご参加いただき、様々な補修をしていただきました。そして今年も4回の世界遺産セミナーを開催し、多くの方にご参加いただきました。
和歌山県世界遺産協議会(事務局:和歌山県世界遺産センター)では、次世代を担う子どもたちへの世界遺産教育として、次世代育成事業を、9月～12月にかけて実施しています。この事業は、世界遺産講座(座学)と現地学習を通して、世界遺産の大切さや紀伊山地の霊場と参詣道への理解が深まるように、和歌山県内の児童・生徒への学習支援を行うものです。参加校の中には、現地学習のなかで道普請(土入れ作業等)をして、児童生徒が直接、参詣道の保全に関わる学校もあります。令和元年度次世代育成事業実施予定校数は30校です。

令和元年9月～11月上旬の道普請参加団体(敬称略)
近畿大学学生部・さわがみ一般財団法人・県立海南高等学校大成校舎・株式会社阪急交通社・和歌山県職員労働組合・環境保全トレーニング・富士ソフト株式会社・花王株式会社和歌山事業場・和歌山県立田辺高等学校・和歌山県立新宮高等学校・市川国際英学財団・豊洋エレクトロ株式会社
道普請とは
文化財保護専門職員による指導のもと、参詣道の保全活動(土入れ・側溝清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くの皆さまに参加していただいています。

参詣道保全活動(道普請)及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせ
和歌山県世界遺産センター TEL.0735-42-1044 までお願いいたします。
住所:和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 FAX:0735-42-1560 E-mail:e0624002@pref.wakayama.lg.jp

新春スペシャル
お正月スペシャル体験教室

恒例の餅つき大会や凧づくり、紙飛行機づくりに折り紙体験など、お正月はご家族そろって熊野古道センターへGO!
1/2 木 **連凧**つくり体験
時間 ①午前10時～12時 ②午後1時～3時
参加料 200円
定員 各15名(要申込・先着順)
場所 体験学習室・芝生広場
講師 熊野古道センター職員
2/3 金 **紙飛行機**つくり体験
時間 ①午前10時～12時 ②午後1時～3時
参加料 200円(事前申込不要)
場所 交流棟大ホール・芝生広場
講師 熊野古道センター職員
3/全 **餅つき**体験
時間 午後1時～2時頃
参加料 無料(事前申込不要)
場所 交流棟小ホール
協力 芳向会のみなさま
●無くなり次第終了

交流イベント
2/8(土) 熊野古道音楽祭
京都フィルハーモニー室内合奏団 弦楽四重奏
京都フィルハーモニー室内合奏団を迎え、お馴染みのクラシック曲を中心とした弦楽四重奏の美しい音色をお楽しみいただけます。
時間 午後1時30分～3時
入場料 1,500円
定員 200名(要チケット・先着順)
場所 交流棟大ホール
出演 京都フィルハーモニー室内合奏団
受付期間 12/21(土)～
熊野古道センター交流棟にてチケット販売開始

わくわく 毎週日曜日開催!! 事前申込不要!
日曜ものづくり体験教室
東紀州で活躍中の木工職人や芸家を講師に、毎週日曜日に開催している体験教室です。事前申込不要で、小さなお子様から大人まで気軽に楽しんで頂けます。
時間 午後1時～3時受付
参加料 300円～(※体験によって異なります)
場所 交流棟ロビー
講師 大形 弥生氏、村川 実氏、竹内 健悟氏、中井 智章氏、吉田 誠人氏、熊野古道センター職員

東紀州の
四季の味
チキンロールのクリスマスプレート
東紀州の特産品や食材の魅力を知っていただくための料理教室です。
時間 午後1時～3時
参加料 2,000円
定員 24名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所 体験学習室
講師 村林 新吾氏(相可高校食物調理科教諭)
相可高校調理クラブの皆さん
クリスマス定番チキン料理や尾巻の地魚を使ったフライなど、パーティーにぴったりなワンプレートを作ります。
受付期間 11/22(金)～12/15(日) 午後5時まで

2/9(日) **旬の牡蠣料理**
地元で収穫される旬の美味しい牡蠣を使用したレシピを提案し、その調理法を学びます。
時間 午後1時～3時
参加料 2,000円
定員 24名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所 体験学習室
講師 村林 新吾氏(相可高校食物調理科教諭)
相可高校調理クラブの皆さん
受付期間 1/9(水)～2/2(日) 午後5時まで

新しい
古道の歩き方
筏師の道をたどる 田戸～小松
かつて木材の運搬方法として筏流しが行われており、熊野川の支流北山川の激流を下る筏師の技術は全国的にも有名でした。その北山村の筏師たちが下流まで筏を運搬した後、家路を急いだ山道をたどるツアーを開催します。
開催日 2月29日(土)
時間 午前8時30分～午後1時
参加料 1,500円(保険料・昼食代含む)
定員 40名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所 和歌山県北山村(集合・おとろ温泉)
案内人 山川 治雄氏、岡田 正光氏
共催 北山村(和歌山県)
雨天の場合 3月1日(日)に順延
受付期間 1/16(水)～2/16(日) 午後5時まで

赤木城跡より北山道探訪～クマノザクラを訪ねて
かつては地域の人々の生活道として歩かれていた北山道を歩きながら、日本国内の野生の桜として100年ぶりの新品種、クマノザクラを探訪するツアーを開催します。
開催日 3月20日(金・祝)
時間 午前9時30分～午後3時
参加料 500円(保険料・資料代含む)
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所 熊野市紀和町(集合・赤木城跡)
対象 どなたでも(※約10kmを歩ける方)
受付期間 2/13(水)～3/13(日) 午後5時まで

ひのきアート教室
12/21(土) お正月飾りづくり 子年
来年の干支(子年)にちなみ、尾鷲ひのきを使用して、玄関やお部屋に飾る置物を作ります。
時間 午前10時～午後12時
参加料 1,000円
定員 10名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所 体験学習室
講師 池田 比早子氏(NPO法人 海虹路)
受付期間 11/21(土)～12/14(土) 午後5時まで

おひなさままつり
2/22(土) 折り紙体験教室
折り紙でおひなさまを作る体験教室を開催します。また、「尾鷲おひなさままつり」との共催で、熊野古道センター各棟におひなさまを展示します。
時間 午後1時～3時
参加料 200円
定員 30名(事前申込不要・先着順)
場所 展示棟ロビー
講師 折り紙サークルの皆さん

講演会
2/16(日) 御神木考 その伝承と意味を探る
身近な神社などにあるご神木と呼ばれる樹木には様々な伝承が伝えられています。これらのご神木に伝わる伝承の淵源を探り、その民族的な意味を考える講演会です。
時間 午後1時30分～午後3時
入場料 無料
定員 80名(要申込・先着順)
共催 三重県立熊野古道センター、吉野歴史資料館(奈良県吉野郡吉野町)
場所 映像ホール
講師 池田 淳氏(前吉野歴史資料館館長)
受付期間 2/15(土) 午後5時まで

世界遺産登録15周年記念シンポジウム
3/8(日) 紀伊半島遺産 地域に眠る宝から 紀伊山地の豊さを知る
三重県、和歌山県、奈良県のそれぞれの地域に眠る宝、『紀伊半島遺産』に関する三県の取り組みについて理解を深めていただくためのシンポジウムを開催します。
時間 午後1時30分～午後3時30分
入場料 無料
定員 80名(要申込・先着順)
場所 映像ホール
講師 小濱 学氏(三重県教育委員会事務局社会教育課 文化財保護課長)、蘇理 剛志氏(和歌山県立紀伊風土記の丘主室学芸員)、松田 度氏(奈良県大宮町教育委員会事務局文化課 主任技師)
コーディネーター 秦 まゆな氏(日本文化案内人・文筆家)